

台桜の魅力を徹底解剖

⑤防災、防犯、コロナ予防…… 子どもの安全対策もしっかり

担当：わたなべ

園によって力の入れ具合に意外と差がある防災・防犯対策。台桜幼稚園では、毎月あらゆる想定のもと**避難訓練**が行われています。また、学期末ごとに下谷警察署の警察官による**交通安全指導**を実施。小学生になったら、登下校や友だちとの待ち合わせなど一人で出かける機会が格段に増えます。その前に、**防災・防犯意識と交通ルールを身に付けることは、「自分の身は自分で守る」上でもっとも重要なことの一つ**です。

本企画では、防災、防犯に関してどのような取り組みがなされているか、ご紹介します。またすっかり欠かせなくなった**感染症感染防止対策**についても取り上げます。

 **避難訓練** 過去に行われた避難訓練の様子を子どもに聞きました。

【例1：園庭遊びの最中に地震発生】

①頭を守ってその場に座る



②園内の放送を聞き、素早く近くの先生の所へ集まる

ここのところ都心でも大きく揺れる地震が多発しています。先日の地震は、子どもが登園した後に起こりましたが、慌てることなく上述の通りの行動ができた息子から聞きました。在宅中に地震が起きた時も、小学生の長男が次男をテーブルの下に押し込んで、二人で避難している姿も見られました。幼稚園で毎月のように避難訓練に取り組んできたおかげで、子どもたちには防災意識がしっかり身についているようです。

【例2：併設する小学校で火災発生】

①先生のまわりに集まり、ハンカチで口を押さえる



②「どこに避難するか」、先生の話をよく聞き、指示に従う

火災は地震に比べ発生頻度が少なく、ほとんどの子どもたちが実際の現場に出くわしたことはないでしょう。迫りくる炎を前にしたら立ちすくんでしまうかもしれません。だからこそ、訓練を通して避難時の行動や注意点について身に

付けてもらえると安心です。

押さない・かけない（走らない）・しゃべらない

は私たち保護者世代にもなじみ深い避難時の約束ですが、今の子どもたちにも受け継がれているようです。

上記のほかにも保護者による引き取り訓練や、教職員・全園児で谷中霊園まで徒歩で避難する訓練、不審者の襲来を想定した訓練などバリエーション豊富です。

防犯・交通安全対策

【例１：防犯教室】

子ども向けの防犯教室では、下谷警察署の方から不審者による犯罪についてまとめた映像を見せてもらったり、話を聞かせてもらったりします。「いかのおすし」という標語を使って、「知らない人についていかない」「知らない人の車に乗らない」などの基本的なことを毎年教わるようです。

保護者向けの教室では、長期休暇の前に、事件や事故に巻き込まれやすい場所や、外出時の注意点について教わります。

【例２：交通安全教室】

保護者と子ども、それぞれに向けた講義が行われます。たとえば保護者向けの講義で毎年心に残るのは、その警察官が過去に担当した事故について。自分や我が子と同世代の悲しい事故の詳細を知ると、「もっと安全に気を付けなければ」と痛感します。

コロナ予防

【例１：手洗い・うがい・マスク・検温の徹底】

登園時、子どもたちは自分の荷物を整理し終えたら、まず手洗い・うがいをします。そして原則として食事以外の時間はマスクを着用。また、毎朝・夕の検温も欠かせません。

【例２：昼食時のパーティション】

園児間にパーティションを立て、適切な距離を保って昼食を取っています。

コロナ感染症対策が始まって一年半、マスクの着用や手指の消毒も上手になりました。日常行われている感染症対策が家庭でも発揮できている様子も見られます。不自由な時、息苦しく感じる時も多いでしょうが、子供たちも順応し、幼稚園生活を楽しんでいる姿を見て、安心しています。

このほか、保護者も送迎時の検温・手指の消毒、園内の各保育室やトイレの清掃、水道水栓金具の消毒にも十分に気をつけています。また、感染拡大につながる恐れのある活動（合唱や身体接触のある遊びなど）を避けるといった取り組みも。少人数で密になりにくい台桜幼稚園ですが、台東区の方針に則ってしっかりとした感染症拡大防止策が実施されていることは、さらなる安心感につながっています。